

R5年度学校評価

「①かなりあてはまる②あてはまる③あまりあてはまらない④あてはまらない」の4項目で評価。数値は、肯定的評価(①②)した人数/全体の人数。

主体的に学ぶ(知)			1学期末	2学期末
1	児童	今まで学習したことや経験したことを使ったり、友達と相談したりして、自分で考えようとしている。	25/27	28/29
	保護者	お子さんは、今まで学習したことや経験したことを使ったり、友達と相談したりして、自分で考えようとしている。	27/27	28/29
	教職員	子供たちは、今まで学習したことや経験したことを使ったり、友達と相談したりして、自分で考えようとしている。	7/7	6/6
2	児童	自分の考えと比べて友達の発表を聞き、友達の意見につなげて自分の考えを発表しようとしている。	26/27	26/29
	保護者	お子さんは、自分の考えと比べて友達の発表を聞き、友達の意見につなげて自分の考えを発表しようとしている。	23/23	26/29
	教職員	子供たちは、自分の考えと比べて友達の発表を聞き、友達の意見につなげて自分の考えを発表しようとしている。	5/7	5/6
3	児童	学習で「分かったこと」「できるようになったこと」や、学習で楽しみにしていることなどを、発表したり、ノートに書いたりしている。	24/27	27/29
	保護者	お子さんは、学習して「分かったこと」「できるようになったこと」や、学習で楽しみにしていることなどを、家庭で話している。	22/23	26/29
	教職員	子供たちは、学習して「分かったこと」「できるようになったこと」や、学習で楽しみにしていることなどを、発表したりノートに書いたりしている。	7/7	6/6
4	児童	タブレットPCを活用して学習する際に、自分の考えを生かしたり深めたりしている。	24/27	27/29
	保護者	お子さんは、タブレットパソコンを活用した学習で自分の考えを生かしたり、深めたりしていることを家庭で話している。	18/23	27/29
	教職員	子供たちは、タブレットパソコンを活用した学習で自分の考えを生かしたり、深めたりしている。	7/7	6/6
	教職員	自分は、子供たちがタブレットパソコンを活用できるような授業を意図的に行っている。	6/7	6/6
5	児童	タブレットPCを活用することは、将来に役立つと思う。	26/27	29/29
	保護者	タブレットパソコンを活用することは、お子さんの将来に役立つと思いますか。	23/23	29/29
6	児童	学校の先生は、自分で考えたり話し合ったりできるように、具体物や体験活動を取り入れたり、生活に生かせるような課題を取り上げたりするなど、授業の内容を考えてくれている。	26/27	26/29
	保護者	教職員は、子供たちが自分事として学習に取り組むことができるように、具体物や体験活動を取り入れたり、生活場面を意識した課題を設定したりするなど、授業を工夫している。	23/23	29/29
	教職員	自分は、子供たちが自分事として学習に取り組むことができるように、具体物や体験活動を取り入れたり、生活場面を意識した課題を設定したりするなど、授業を工夫している。	6/6	5/6
7	児童	家の人は、自分(子供)の学習に関心を持ち、進んで学習に取り組むことができるように、助言したり、宿題に取り組む様子や内容等を見たりしてくれている。	24/27	28/29
	保護者	家庭では、お子さんの学習に関心を持ち、家庭学習が自ら学ぶ学習になるように、助言したり、宿題に取り組む様子・内容等を見届けたりしている。	21/23	25/29
	教職員	自分は、子供たちが学習に関心を持ち、自ら家庭学習に取り組むことができるように、家庭学習のしかたや内容について、助言したり、良い取り組みを紹介したりしている。	6/6	5/6
	教職員	保護者は、子供たちが学習に関心を持ち、家庭学習が自ら学ぶ学習になるように、助言したり、宿題に取り組む様子・内容等を見届けたりしている。	7/7	6/6
考察(知)	<p>○「項目1」について1学期と比較すると、児童の「かなりあてはまる」の評価が増えている。子供たちが自分で考えようと努力している様子がうかがえる。授業で一人学びの充実を図っている成果である。逆に「項目2」について児童の「かなりあてはまる」の評価が減っている。具体的な事例を示しながら意見をつなげる活動を取り入れる努力をしていきたい。</p> <p>○「項目3」の児童の肯定的評価が1学期よりも増えているが、保護者は減っている。児童の学習の様子を保護者に知らせる方法を考える必要がある。また、学習の最後の「振り返り」が子供たちにとって当たり前のこととなり、同じような内容になりつつある。自分事として「次につながる自分の学びの振り返り」となるように指導していきたい。</p> <p>○「項目4, 5」では、授業でのタブレットの活用が一層増え、児童・保護者ともに必要性を感じている。今後も研修等で効果的な活用方法を学び実践することを継続していきたい。</p> <p>○「項目6」の項目は、児童・保護者の肯定的評価は高いが、否定的な評価が1学期に比べ児童で若干増えている。タブレットの活用によって、課題の設定が児童の実態に合っていないときがあるように感じられる。カリキュラム・マネジメントをしっかりと行うとともに、単元を通して授業を構想したり、児童の生活の実態を踏まえた問題を提示したりすることによって、児童の実態に合わせた課題に興味をもたせ、自分事として学びを深めさせたい。</p> <p>○家庭学習に関する「項目7」では、多くの児童が肯定的評価をしており、多くの保護者が子供の学習に関心を持ち、自ら学ぶ家庭学習となるように支援をしてくれている。学校では、主体的な家庭学習となるように、授業の学びを自分事として受け止め、何をすべきか考えられるように支援していきたい。</p>			

自分らしく輝く(徳)

1学期末

2学期末

8	児童	自分や友達のよいところや頑張っていることを見付け、きらっとカードに書いたり発表したりしている。	21/27	27/29
	保護者	お子さんは、自分や友達のよいところや頑張っていることを、家庭で話している。	22/23	27/29
	教職員	子供たちは、自分や友達のよいところ・頑張っていることを見付け、書いたり発表したりしている。	7/7	6/6
9	児童	学習や遊びなどの場で、進んで友達と関わっている。	24/27	28/29
	保護者	お子さんは、学習や遊びなどの場で、進んで友達と関わろうとしている。	22/23	28/29
	教職員	子供たちは、学習や遊びなどの場で、進んで友達と関わろうとしている。	7/7	6/6
10	児童	自分の生活をよりよくしようと、生活を見直したり、明日葉カードの目標にして粘り強く取り組んだりしている。	23/27	26/29
	保護者	お子さんは、自分の生活をよりよくしようと、生活を見直したり、目標に向かって粘り強く取り組んだりしている。	21/23	25/29
	教職員	自分は、子供たちの生活をよりよくしようと、生活を見直させたり、目標に向かって粘り強く取り組むことができるように、励まし支援したりしている。	7/7	6/6
11	児童	学校の先生は、できること・得意なことが増えるように励ましたり、頑張ったことやよい行いを認めたりしてくれる。	26/27	25/29
	保護者	教職員は、子供たちができること・得意なことを増やし、自分のよさを見付けられるように、励まし支援している。また、よいところを認めている。	23/23	29/29
	教職員	自分は、子供たちができること・得意なことを増やし、自分のよさを見付けられるように、励まし支援している。また、よいところを認めている。	7/7	6/6
12	児童	家の人は、できること・得意なことが増えるように励ましたり、頑張ったことやよい行いを認めたりしてくれる。	26/27	29/29
	保護者	家庭では、お子さんができること・得意なことを増やし、自分のよさを見付けられるように、励まし支援している。また、よいところを認めている。	23/23	27/29
	教職員	家庭では、子供たちのできること・得意なことが増えるように、励ましたり支援したりしている。また、子供たちのよいところを認めている。	7/7	5/6

考察 (徳)

○「項目8」は、1学期同様、児童・保護者ともに肯定的評価が高く、否定的評価の児童も減っている。今年度は、昼活動に「輝き」として「きらっとカード」を記入し、友達の行事での頑張りをみんなで見付けたり、自分の頑張りを友達に認めてもらった成果である。今後も、友達の良さを見つけ、日常的に「きらっとカード」を活用する意識を高めさせたい。

○「項目9」の肯定的評価は、児童・保護者ともに1学期よりも増加している。2学期は、昼休み時間にボールや固定遊具を使った外遊びを楽しんだり、図書室で本を読んだりなど、思い思いに過ごす姿が多く見られた。そのことが結果に反映していると思われる。今後もブログや頼りを活用して昼休みの様子を伝えたり、縦割り遊びや他学年との交流を計画・実践することで、多くの友達と関わるという小規模校のよさを発揮できるようにしていきたい。

○「項目10」は、1学期と比べ児童・保護者の肯定的評価はやや改善された。学校では、明日葉カードに掲げた目標を達成しようと子供たちの頑張っている様子が見られる。家庭生活でも少しずつ変化がみられるようになったと考えられる。今後も学校からの発信を継続して、子供たちのよい表われや頑張りの様子を学校と家庭で共有できるようにしたい。

○1学期に比べ「項目11」は児童、「項目12」は保護者の肯定的評価が減少している。学校として今までの指導を振り返るとともに、今後は児童の自己効力感の高まるような声掛けに一層取り組んでいきたい。また、学校でのよい表われや頑張りの様子を積極的に家庭に伝え連携することで、子供たちが自分に自信をもち「自分らしく輝く子」を目指せるように支援していきたい。

健やかな心・体をつくる(体)			1学期末	2学期末
13	児童	毎月の挨拶のめあてを意識して、自分から進んで挨拶している。	25/27	27/29
	保護者	お子さんは、自分から進んで挨拶している。	20/23	23/29
	教職員	子供たちは、毎月の挨拶のめあてを意識して、自分から進んで挨拶している。	7/7	6/6
14	児童	学校では、笑顔で元気に生活している。	24/27	24/29
	保護者	お子さんは、笑顔で元気に学校生活を送っている。	23/23	27/29
	教職員	子供たちは、笑顔で、元気に生活している。	7/7	6/6
15	児童	朝・昼休みや体育の授業、チャレンジ運動では、体を動かすことを楽しんだり、自分の目標をもって運動したりしている。	25/27	27/29
	保護者	お子さんは、体を動かすことを楽しみ、目標をもって運動に取り組んでいる。	22/23	26/29
	教職員	子供たちは、朝・昼休みや体育の授業、チャレンジ運動では、体を動かすことを楽しんだり、自分の目標をもって運動したりしている。	7/7	6/6
16	児童	毎日、早ね・早起きをしたり、朝ごはんを欠かさず食べたりしている。また、メディアについての約束を守って生活している。	23/27	26/29
	保護者	家庭では、早ね・早起きを呼び掛けたり、朝食を食べさせたりしている。また、メディアについての約束事を決め、守らせている。	23/23	29/29
	教職員	子供たちは、毎日、早ね・早起きをしたり、朝ごはんを欠かさず食べたりしている。また、メディアについての約束を守って生活している。	6/7	5/6
考察 (体)	<p>○「項目13」は、1学期に比べ保護者の肯定的評価が減っている。学校での挨拶が習慣化され、朝の校内には挨拶の声が響き渡っていた。しかし、その一方で家庭での挨拶に消極的であったと考えられる。今後は、「挨拶のよさ」を考えたり、挨拶ができて友達を紹介したりして、いつでもどこでも挨拶に心掛けることを習慣化できるよう支援していきたい。</p> <p>○「項目14」は、児童の「かなりあてはまる」の評価が増えている。学校として、「いじめ未然防止」に努めてきた成果であると思われる。その一方で、児童・保護者の肯定的評価全体は減少している。まだまだ児童と保護者の中には不安を感じている人がいると考えられるので、それぞれがもつ不安を取り除くために、一人一人に寄り添い共感する姿勢で対応する必要がある。そして、全職員で日頃の教育活動における児童理解に努め、全児童が楽しいと思える学校にしていきたい。</p> <p>○「項目15」の肯定的評価は、児童・保護者ともに1学期と同様である。昼休みに運動場で遊ぶ子が多く見られ、チャレンジ運動で行っている種目にも、多くの子供たちが楽しく取り組んでいた。しかし、一見楽しそうに見えても運動に苦手意識がある児童の意欲は低下していることが考えられる。特に、2学期末は持久走記録会があったことも要因として考えられる。そのような児童でも楽しく運動に関わることができるように体育の授業を工夫したり、チャレンジ運動で運動への関心を高めたりしていきたい。</p> <p>○「項目16」の肯定的評価は、児童、保護者ともに増えている。これは、養護教諭を中心に行っている「すこやかチェック」で改善を図っている成果である。テーマを月ごとに絞り1週間実施する中で「げんきポイント」を設定し、目標達成を目指して努力する家庭が増えている。今後も、基本的な生活習慣の確立のためにも継続していきたい。</p>			

学校運営・学校体制・PTA等			1学期末	2学期末
17	保護者	学校は、お子さんのことについて相談がしやすい。	23/23	29/29
	教職員	自分は、子供たちにとってよき相談相手となったり、保護者の要望に適切に対応したりしている。	7/7	6/6
18	保護者	家庭では、便りやホームページ、その他の方法で、学校の情報を得ることができている。	21/23	28/29
	教職員	自分は、学校の情報や子供の様子を、適切な方法で保護者や地域に発信している。	7/7	6/6
19	保護者	学校は、子供たちの安全確保のための取組を十分行っている。	23/23	29/29
	教職員	自分は、子供の安全確保のための取組が十分にできている。	7/7	6/6
20	児童	午前中4時間・午後2時間授業をするより、午前中5時間・午後1時間授業の方がよい。 (低学年⇒午前中4時間・午後1時間授業より、午前中5時間・午後は授業なしの方がよい。)	18/24	27/29
	保護者	学校は、午前中5時間授業のよさを生かして、教育活動を行っている。	23/23	26/29
	教職員	午前中5時間授業は、教育的効果がある。	7/7	6/6
考察		<p>○「項目17」において、保護者に100%の肯定的評価を得た。大変ありがたい評価である。「いじめ未然防止」のために保護者との連携をより深めた成果であると考えられる。今後、学校と家庭が思いを共有することで、社会に開かれた教育課程の実現を図っていきたい。</p> <p>○「項目18」は、1学期より「かなり当てはまる」の評価が大幅に増加している。便りやホームページのブログだけでなくこまめな家庭連絡の成果であると考えられる。今後も情報発信の方法を模索するとともに、個別に保護者に児童の様子を伝えることも心掛けていきたい。</p> <p>○「項目19」の項目においても、保護者に100%の肯定的評価を得た。日頃からの安全に関わる取り組みの成果であり、子供の安全が第一である学校としてうれしい評価である。今後も、校内の安全管理、登下校の見守り等、十分気を配るとともに、北陸地方の地震を踏まえて、地震や津波の避難方法や避難場所を再度検討していきたい。</p> <p>○午前中5時間授業の体制となって5年目を迎えた。午前4時間を知らない児童が増え、1学期末の評価は否定的な評価が多かったが、午前5時間の良さを伝えてきたため改善され、1学期に比べ児童の肯定的な大幅に増えた。しかし、ここ2年間保護者に午前5時間の意義を伝えていないためか、保護者の肯定的評価は減少している。今後は、保護者へメリットをしっかりと伝えていきたい。学校としては、教職員の出張が午後に多くクラスを空けることがあっても、自習にすることは少なく、学習時間をきちんと確保できることも、午後の授業が1時間という午前中5時間授業の強みであると言える。今後も小規模校のよさを生かした教育活動を模索していきたい。</p>		